

⑩ 支川（^{さかがわ}逆川）と周辺の棚田

栃木県と茨城県境にある仏頂山に源を発する逆川は、茂木町中心部で北東に流れを変えながら那珂川へ流入する。栃木県内の多くの川とは逆に南から北へ流れることから、逆川と呼ばれたとも伝えられる。逆川の水辺にはニホンアカガエルやトウキョウダルマガエルなどが生息し、これらを餌にするヤマカガシやサシバが生息する。逆川周辺の休耕田では、ハッチョウトンボ、オゼイトトンボ、モートンイトトンボなどのトンボ類が見られる。県内では生息地が少ないフトネクイハムシをはじめとして、スゲハムシ、ツヤネクイハムシ、スジグロボタル、スゲヒメゾウムシなどの湿地性の昆虫類が多く見られる。また、秋になると、田の畦などでミゾソバ、ヒメジソ、ユウガギクなどの植物が花を咲かせる。

逆川が合流する茂木町周辺では、平地が少ないため、傾斜地に営々と田を開墾してきた。この地では、棚田と小さな川の流れが一体となった環境に、昔ながらの里山の生き物が息づいている。山に降った雨が小さな谷となり、その沢水が集まって水量を増し、無数の沢や小川はやがて逆川や那珂川に合流する。逆川の対岸にある茂木町^{まぎの}牧野・^{おおふじ}大藤や、^{きすかわ}木須川上流の石畑には、棚田の風景が広がっており、石畑は平成9年に『日本の棚田百選』（農林水産省認定）に選ばれた。



牧野地区の棚田（茂木町 平成18年6月）



ヒメジソ（シソ科）

（写真：安昌美氏）



ミゾソバ（タデ科）

（写真：梶日水コソ）



ニホンアカガエル

（アカガエル科）



ハッチョウトンボ（トンボ科）

（写真：栃木県立博物館）

図4-53 逆川沿川に残る棚田と生物